

子どもの安心・自信・自由を支える 北海道&リアスCAP協働事業

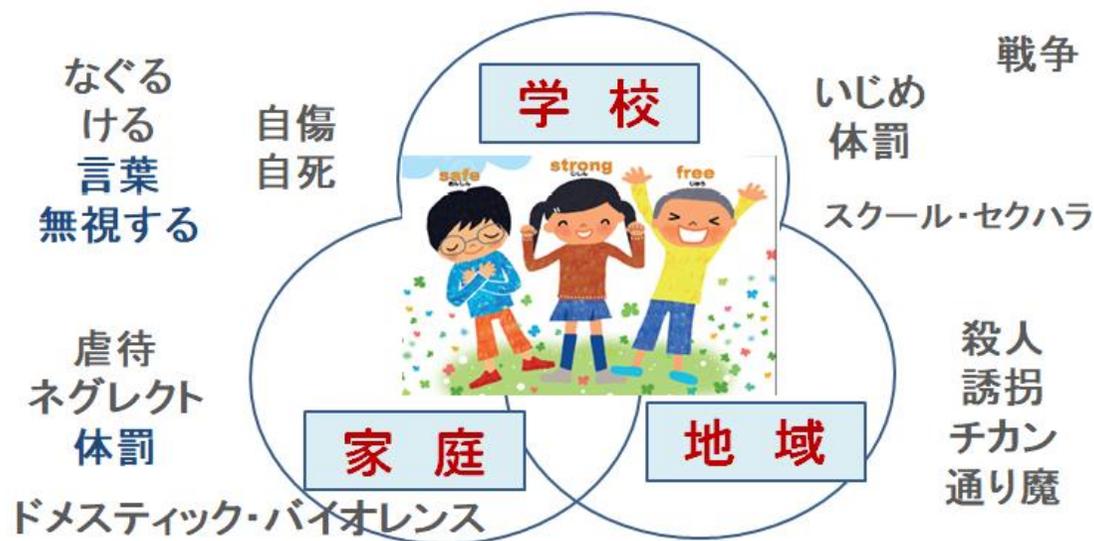
特定非営利活動法人
北海道CAPをすすめる会
代表理事木村里美

CAP (キヤップ/Child Assault Prevention)

子どもへの暴力防止

暴力とは、

人の心と身体を傷つけること、人権侵害行為



子どもの人権 安心・自信・自由

子どもの発達やニーズに応じたプログラム

就学前・小学生・中高生障がいのある子ども
児童養護施設の子ども

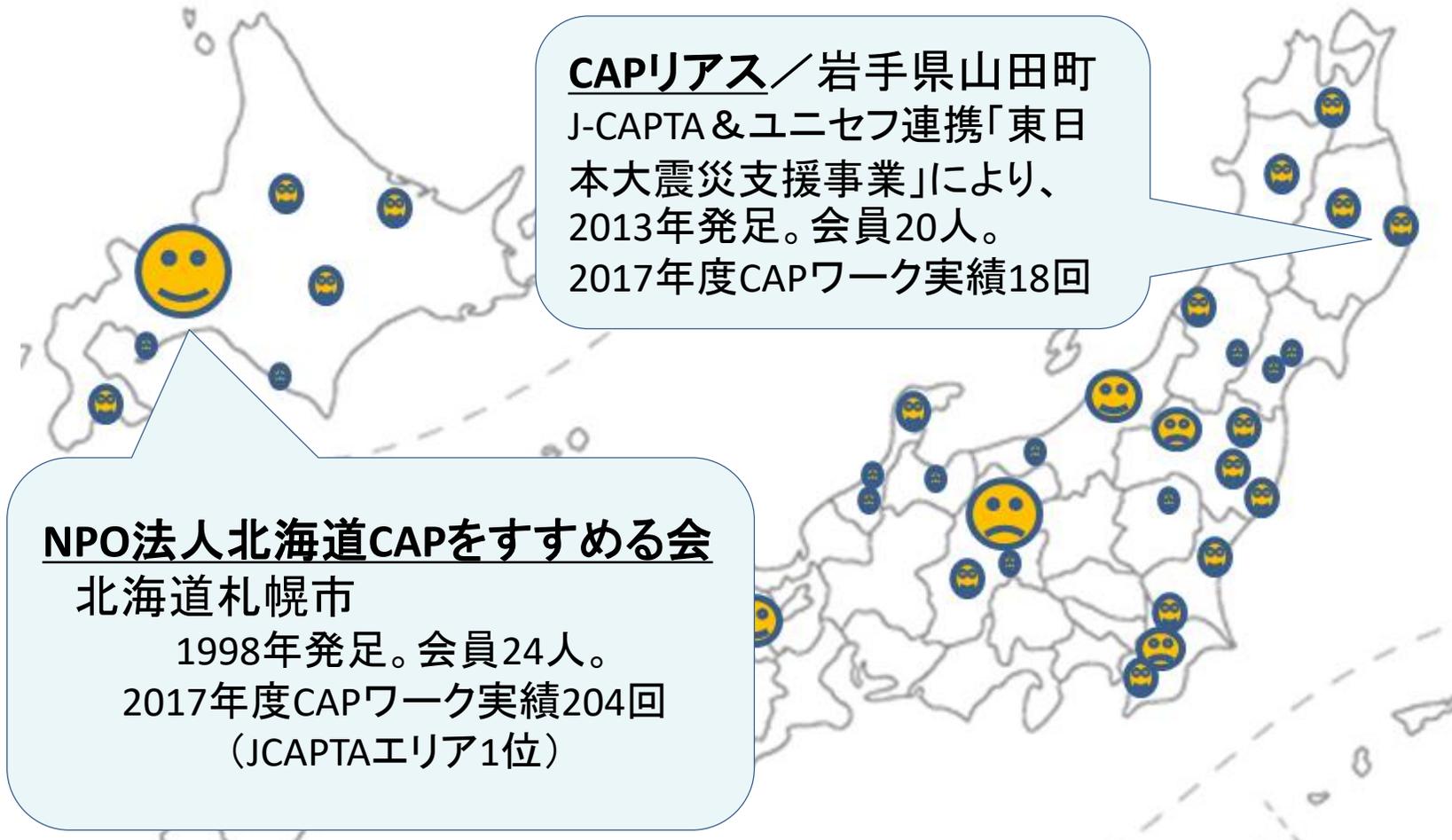
できること

NO GO TELL

対象別のプログラム

- ・子どもワークショップ・教職員ワークショップ・保護者ワークショップ

北海道&リアスの協働？



CAPは1978年米国オハイオ州コロンバス市のレイプ救援センターで誕生し、1985年に森田ゆりによって日本に紹介され、1995年より各地でCAPグループが活動開始した。23年間で545万人がCAPワークショップに参加した。

北海道CAPをすすめる会		CAPリアス
<ul style="list-style-type: none"> ・全プログラムを提供でき、全プログラムの実践の場がある。 ・トレーナーが所属している。 	強み	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地に立ち上ったCAP ・町内すべての幼稚園保育園でCAPを実施。
<p>「札幌市内でのワーク実績増」 しかし... いろいろやってみたが成果なし そうだ... 被災地でCAPが必要なら、 その他の地域でも必要はず</p>	ニーズ	<p>「町内小学校でのCAPの普及」 しかし... <input checked="" type="checkbox"/>小学生プログラムの実演ができない <input checked="" type="checkbox"/>広報するにも現場を知らず自信がない。 <input checked="" type="checkbox"/>依頼がきても実施できない。 だから...小学校でCAP実習をしたい</p>
<p>CAPワークショップの財源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受益者負担 ・困難なケースは東日本大震災被災者支援助成を活用 	備考	<p>CAPワークショップの財源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受益者負担は困難 ・2011～2016 J-CAPTA & ユニセフ連携事業 ・2017～グループが地域の助成金を獲得

3年後（2020年）

- CAPリアス独自で小学生プログラムを実施する
- 山田町内小学校1クラスでCAPを実施する
（町内小学生の2%、J-CAPTA平均1%）

5年後（2022年）

- 山田町モデル…就学前1回小学生1回CAPを受講する仕組み
- 沿岸市町村へ波及する

本事業において（2018-2019年）

- リアスメンバーの人材育成
- リアス地域の（小学校での実施を目指す）協力者を増やす

① 人材育成共同CAPワークショップの実施

リアスメンバーが北海道に来てワーク実習をする
2019年4～6月、北海道地域、3チームを準備

② リアス地域での普及説明会&教職員ワークショップの開催

北海道メンバーが山田町に行って応援

1回目：2018年11月山田町教育研究協議会

2回目：2019年8月



③ 北海道地域での広報啓発学習会の開催

リアスメンバーが北海道に来て講師を務める
「被災地で、なぜ、CAPなのか？」

1回目4～6月：震災支援NPO＋教職員＋一般

2回目7月：全国CAPグループ＋一般公開（札幌市）

- 共同ワークショップスタッフ受け入れマニュアル
- 「① **スタッフルールチェックシート**」を作成
- 人材育成を何で測るか
- スキルアップを確認する「② **CAPスペシャリスト半人前一人前チェックシート**」の作成
(24項目5段階⇒スペシャリストなら120点をを目指す)
- CAP普及のための協力者が増えたかを何で測るか
- 参加者への「③ **プレゼンセット作戦**」で問合せを見える化

※北海道メンバー内にかすかな希望が…小さな相乗効果？

- 協働事業の計画-調整の難しさ
 - ▶ 震災後8年目の団体が抱えている（新たに生じた）困難
⇒ ニーズ・アセスメントの視点で。

